

アジアにおける温室効果ガスインベントリ 整備に関するワークショップ 第15回会合(WGIA15)の結果について

平成30年1月
環境省地球環境局低炭素社会推進室

WGIA15の結果について①

WGIAとは

環境省と国立環境研究所が、アジア地域諸国の温室効果ガスインベントリの精度向上と、地域の協力関係の促進を目的に、2003(平成15)年度より毎年開催しているワークショップ。

※ WGIA: Workshop on Greenhouse Gas Inventories in Asia の略

WGIA15の開催

2017(平成29)年度は、7月11～13日にミャンマー・ネピドーにおいて、メンバー国のうち14カ国の政府関係者、研究者及び国際機関の参加を得て第15回会合(WGIA15)を開催した。

参加者

ブルネイ、カンボジア、中国、インド、インドネシア、日本、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、フィリピン、韓国、タイ、ベトナムの政府関係者、研究者、関連国際機関等(総計120名)

主な議題

- ・ 温室効果ガスインベントリの分野毎の相互学習
- ・ 国別報告書(NC)、隔年更新報告書(BUR)の進捗
- ・ ICAプロセスにおける経験と非附属書I国からの報告における透明性強化の支援
- ・ 非附属書I国からのFガスの排出
- ・ インベントリと将来予測や緩和行動



↑ 全体会議の様子



↑ 分野毎の相互学習風景(小グループ)

WGIA15の結果について②

WGIA15の成果

- 国際的協議・分析(ICA)の中で隔年更新報告書(BUR)の技術的分析(TA)と促進的な意見の共有(FSV)が行われることを見据えて、2006年IPCCガイドラインを適用することが有効であることや、ICAの経験がインベントリを含むBURの透明性を高めることが共有された。
- 主要な温室効果ガスの一つであるFガスの排出を算定・報告することの重要性が共有され、インベントリの精度の改善は各国のNDCの策定や評価にとって重要であることが確認された。
- 相互学習は自国や他国の状況を理解する良いきっかけになり、インベントリを含むBURの改善につながったとの認識等が共有された。



←WGIA15参加者

今後の方向性

第16回会合(WGIA16)を2018年度に開催する。相互学習、およびICAの経験を踏まえてのBURとそれに含まれるインベントリの改善のための議論を行う。